

高等学校の教科・科目構成について

(各学科に共通する各教科及び総合的な探究の時間)

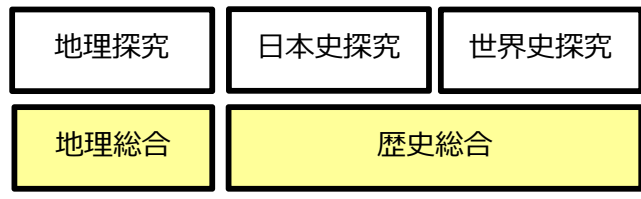
☐…共通必修 ☐…選択必修

※ グレーの枠囲みは既存の科目

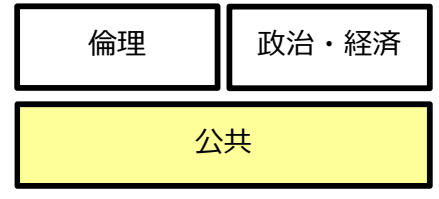
国語科



地理歴史科



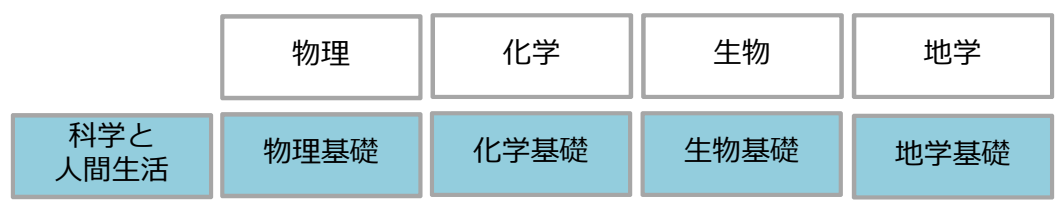
公民科



数学科



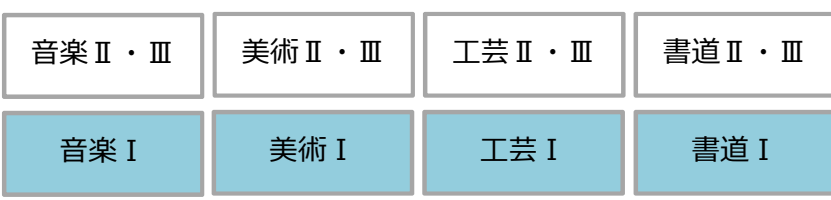
理科



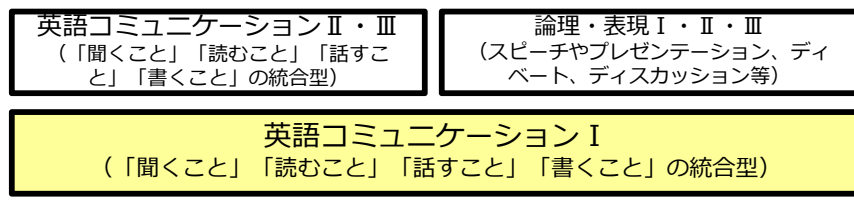
保健体育科



芸術科



外国語科

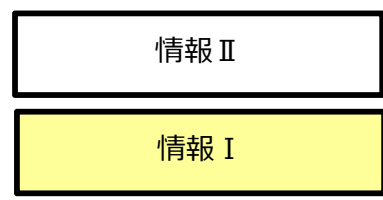


※英語力調査の結果やC E F Rのレベル、高校生の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討。

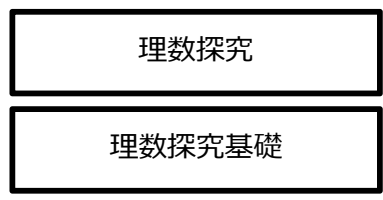
家庭科



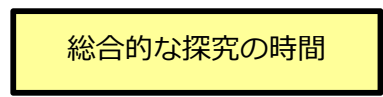
情報科



理数科



総合的な探究の時間



※ 実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連付けながら、探究する能力を育むという在り方を明確化する。

新高等学校学習指導要領 国語科の科目構成

《現行学習指導要領》

国語総合
(4単位)

国語表現
(3単位)

現代文A
(2単位)

現代文B
(4単位)

古典A
(2単位)

古典B
(4単位)

《新学習指導要領》

※ () 内は標準単位数

現代の国語(2単位)

- 実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目
- (例)
 - ・話し合いの仕方や結論の出し方を工夫し、結論を得たり多様な考えを引き出したりするための議論や討論をする学習
 - ・論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開、説明の仕方を工夫しながら説明資料をまとめる学習
 - ・論理的な文章や実用的な文章を読んで、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら内容を解釈したり、推論を働かせて自分の考えを深めたりする学習

言語文化(2単位)

- 上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目
- (例)
 - ・我が国の言語文化に特徴的な語彙や表現の技法を用いて短歌や俳句をつくったり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで随筆などを書いたりする学習
 - ・我が国の伝統や文化をテーマにした論説文や随筆、古典や古典を解説した文章、古典を翻案した小説、近代以降の文学的文章などを読んで、ものの見方、感じ方、考え方を捉えて内容を解釈したり、我が国の言語文化について考えたりする学習

論理国語(4単位)

- 実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力の育成を重視した科目
- (例)
 - ・批判的に読まれることを想定し、立場の異なる読み手を説得するために、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、論拠の吟味を重ねたりして、自分の主張を明確にしながら論述する学習
 - ・論理的な文章や実用的な文章を読んで、結論を導く論拠を批判的に検討したり、内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めたりする学習

文学国語(4単位)

- 深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする力の育成を重視した科目
- (例)
 - ・文学や映画の作品、それらについての評論文を参考にすることで、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮し、読み手を引き付ける文章になるよう工夫しながら、小説や詩歌を創作する学習
 - ・小説や詩歌、随筆などを読んで、文体の特徴や効果について考察したり、作品の内容や形式について評価して書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする学習

国語表現(4単位)

- 実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う力の育成を重視した科目
- (例)
 - ・相手の同意や共感が得られるよう、表現を工夫してスピーチをしたり、他者のスピーチを、論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、自分の考えを深めたりする学習
 - ・読み手の同意や共感が得られるよう、適切な根拠や具体例を効果的に用いたり、文章と図表や画像などを関係付けたりしながら、企画書や報告書などを作成する学習

古典探究(4単位)

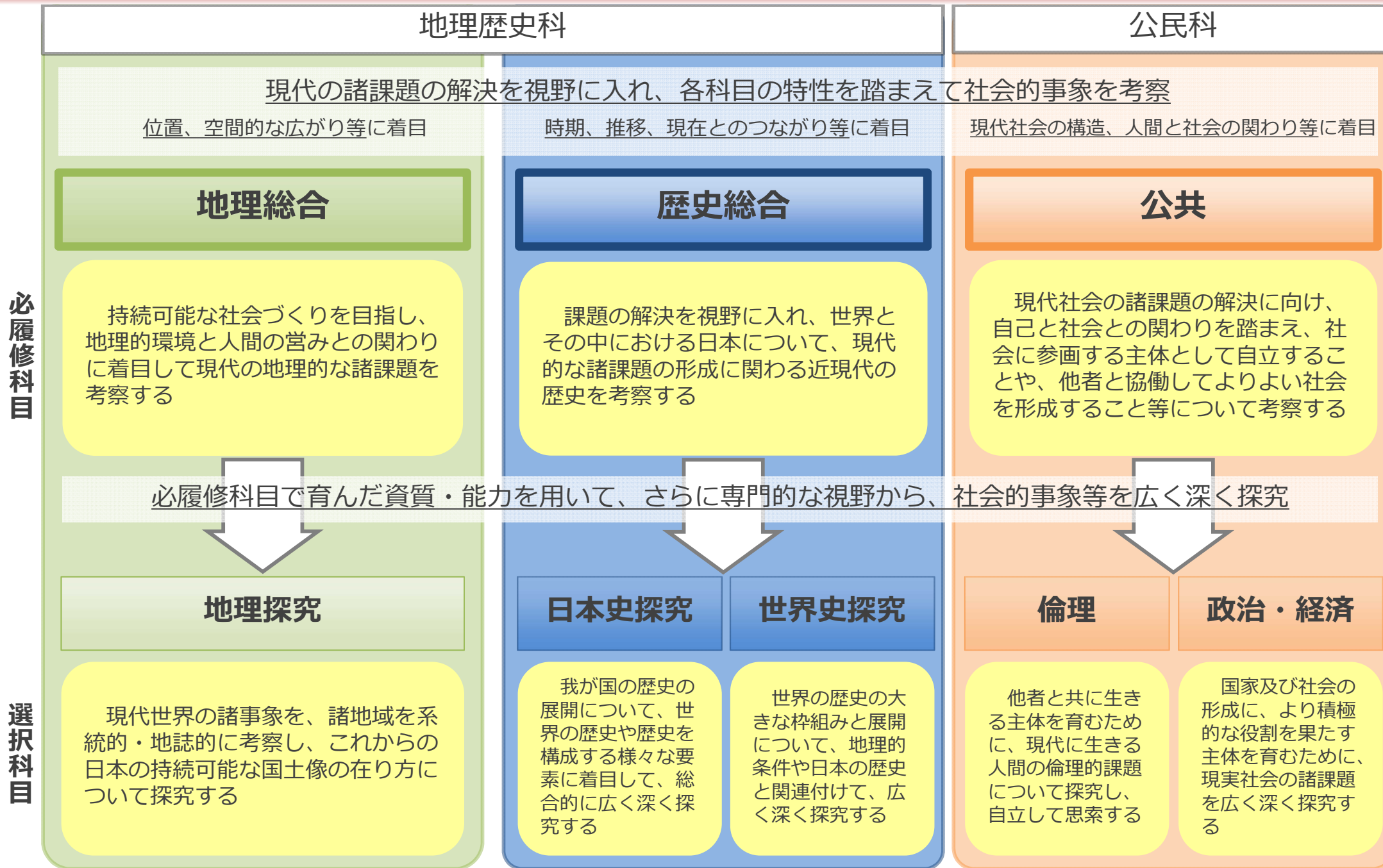
- 生涯にわたって古典に親しむことができるよう、我が国の伝統的な言語文化への理解を深める科目
- (例)
 - ・古典としての古文及び漢文を読んで、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えたり、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら解釈を深めたりする学習
 - ・関心をもった事柄について、関連する複数の古典の作品や資料などを読んで、自分のものの見方、感じ方、考え方や、我が国の言語文化についての自分の考えを深める学習

共通必修科目

選択科目

高等学校学習指導要領「地理歴史」「公民」について

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために



※ 生徒が歴史を豊かに学べるよう、歴史上の用語を削減する規定は設けない。

地理歴史科の新しい必修修科目「地理総合」について

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

科目の特徴

持続可能な社会づくりを目指し、地理的環境と人間の営みとの関わりに着目して、現代の地理的な諸課題を概観・考察

グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方、ローカルな視座からは防災など、現代の諸課題への対応を考察

ICTにより飛躍的に有用性が向上している地理情報システム（GIS）に関わる地理的技能を習得

【育成すべき資質・能力】

【知識及び技能】

地球規模の自然システムや社会・経済システムに関する理解、地理に関する情報を効果的に調べまとめる技能 など

【思考力、判断力、表現力等】

地理に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、地域等の枠組みの中で概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、地域に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力 など

【学びに向かう力、人間性等】

持続可能な社会づくりに向けて、地球的、地域的課題を意欲的に追究しようとする態度 など

「地理総合」の構造 <持続可能な社会づくりに求められる地理科目>

A 地図や地理情報システムで捉える現代世界

GIS

- ⇒ 現代世界の地域構成を捉える地図の読図を通じ、貿易や交通・通信、観光等に関する国内や国家間の結び付きなどの観点から現代世界を概観
- ⇒ 地理情報システム(GIS)の有用性に気付き、それらを用いる地理的技能を身に付ける

B 国際理解と国際協力

グローバル

ESD

(1) 生活文化の多様性と国際理解

グローバル化する社会において国際理解を深めるため、世界の多様な生活文化と地理的環境との関わりについて考察する

(2) 地球的課題と国際協力

(1)で学んだ世界の生活文化の多様性を踏まえ、地球規模の諸課題とその解決に向けた各国の取組や国際協力の必要性について考察する

C 持続可能な地域づくりと私たち

防災

(1) 自然環境と防災

我が国をはじめ世界の自然災害や生活圏の自然災害を基に、防災と自然環境との関わりや防災対策について考察する

(2) 生活圏の調査と地域の展望

「地理総合」全体のまとめとして、生徒の日常的な生活圏内から課題を取り上げ、観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて、持続可能な地域づくりのための改善・解決策を探究する

地理歴史科の新しい必修科目「歴史総合」について

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

科目の特徴

近現代の歴史を理解するに当たって、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉える

課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察

歴史の大きな変化に着目し、單元ごとに問いを立て、資料を活用しながら歴史の学び方を習得

A 歴史の扉

- (1) 歴史と私たち
- (2) 歴史の特質と資料

【大項目Aの性格】 「歴史総合」の導入として、中学校までの学習を振り返りながら、歴史を学ぶ意義や歴史の学び方を学習

- (1) 自分の生活や身近な地域の歴史が日本や世界の歴史とつながっていることを理解したり、その関連性について考察したりする
- (2) 資料から情報を読み取り、その意味や意義等を考察・表現する

【大項目B～Dの構造】

中項目(1)で大項目を見通した問いを立てた上で、(2)(3)で以下の内容を扱い、(4)で大項目の振り返り／科目全体のまとめを行う

B 近代化と私たち

- (1) 近代化への問い
- (2) 結びつく世界と日本の開国
- (3) 国民国家と明治維新
- (4) 近代化と現代的な諸課題

【主な内容】

- 18世紀のアジアの経済と社会、アジア諸国と欧米諸国の接触・交流、日本やアジア諸国と欧米諸国の関係の変容 など
- 欧米諸国の市民革命、日本の近代化や国民国家形成の動き、列強の帝国主義政策、アジア諸国とその他の国や地域の動向 など

【その内容の取扱い】

- 日本の美術などのアジアの文物などが欧米に与えた影響、欧米諸国によるアジアへの勢力拡張競争とアジアの経済・社会の仕組みの変容 など
- 人々の政治的発言権の拡大と近代民主主義の基礎の成立、日本の立憲国家としての国際的地位向上に向けた取組、日本の近代化等がアジア諸民族の独立や近代化の運動に与えた影響、朝鮮半島・中国東北地方への勢力拡張 など

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

- (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い
- (2) 第一次世界大戦と大衆社会
- (3) 経済危機と第二次世界大戦
- (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題

- 第一次世界大戦の展開・性格と惨禍、ソ連の成立とアメリカの台頭、戦後の国際秩序の形成、大衆社会の形成と社会運動の広がり、大正デモクラシーと政党政治 など
- 世界恐慌と国際協調体制の変容、第二次世界大戦の展開・性格と惨禍、戦後世界の形成、日本の国際社会への復帰 など

- 国際連盟の成立や軍縮条約の締結における日本の役割と国際的立場の変化、社会主義思想の広がり等がその後の世界に与えた影響、民主主義的風潮の形成と日本における政党内閣制の展開 など
- 世界恐慌による混乱、日本の政治体制や対外政策の変化、国際秩序の変容、第二次世界大戦の過程での米ソ対立、脱植民地化への萌芽、戦争が人類全体に惨禍を及ぼしたことと平和で民主的な国際社会を実現することの重要性 など

D グローバル化と私たち

- (1) グローバル化への問い
- (2) 冷戦と世界経済
- (3) 世界秩序の変容と日本
- (4) 現代的な諸課題の形成と展望

- 冷戦の展開と国際政治の変容、世界経済の拡大と経済成長下の日本社会 など
- 市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題 など

- アジア・アフリカ諸国による主体的な国家建設、西欧や東南アジアの地域連携や経済成長と冷戦との関わり など
- 民族対立や武装集団によるテロなど地域紛争の多様化、ODAやPKOを通じた日本の国際社会における役割 など

公民科の新しい必修科目「公共」について

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

A 公共の扉

社会に参画する自立した主体とは、地域社会などの様々な集団の一員として生きるとともに、他者との協働により当事者として国家・社会などの「公共的な空間」を作る存在であるということ学ぶとともに、そこで自分自身が様々な選択・判断をする際に手掛かりとなる概念や理論、公共的な空間における基本的原理を理解するようにし、大項目B、Cの学習の基盤を養う

B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

大項目Aの学習内容を活用して、現実社会の諸課題に関して設定する主題を多面的・多角的に考察・構想。その際、生徒の学習意欲を高めるよう、主題ごとに具体的な「問い」を立て、生徒の日常の社会生活と関連付けながら具体的な事柄を取り上げて指導する

〔「法」「政治」「経済」などに関わる主題〕

- 法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義、
- 政治参加と公正な世論の形成・地方自治、国家主権・領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割、
- 職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)

〔メディア・リテラシーの育成〕

主題学習に関連させて、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能、情報の妥当性や信頼性を踏まえた公正な判断力(情報モラル含む)を身に付けるよう指導

大項目Bの学習では、世代間の協力、協働や自助・共助及び公助などによる社会的基盤の強化などに関連付けて学ぶとともに、防災情報の受信・発信など現実の具体的な社会的事象等を扱ったり、模擬的な活動を行ったりする。

C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち(「公共」全体のまとめ)

持続可能な社会づくりに向けた役割を担う主体となることに向けて、地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成という観点から課題を見出し、その解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述するという学習活動を行う。

「公共」の授業で行うことが考えられる学習活動の例

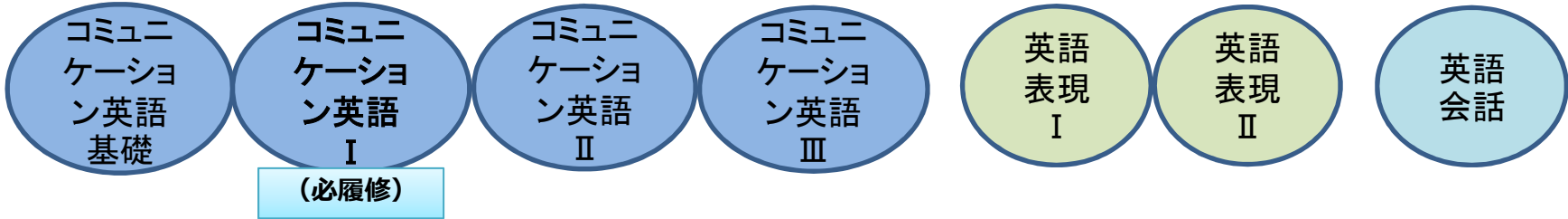
思考実験、討論、ディベート、模擬選挙、模擬裁判、インターシップの事前・事後の学習など

関係する専門家・機関の例

選挙管理委員会、消費者センター、弁護士、NPO など

高等学校外国語・英語 改訂の概要

現行科目
(外国語)



課題

- ・生徒の英語力について、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」全般、特に「話すこと」と「書くこと」の力に課題
- ・言語活動、特に、統合型の言語活動(例：聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする活動)が十分ではない
- ・学習意欲に課題
- ・グローバル時代において、英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

発信力が弱い

育成を目指す
資質・能力

- 日常的な話題や社会的な話題について、統合的な外国語を通して、
- (1)言語に対する理解を深め、実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付ける。
 - (2)目的や場面、状況などに応じて的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。
 - (3)文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的・自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り・発表]」「書くこと」の力を総合的に育成(必修修科目を含む)



発信力の育成をさらに強化

英語による思考力・判断力・表現力を高める見直し

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ

- ・「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り・発表]」「書くこと」の力を総合的に育成
- ・明確な目標(英語を使って何ができるようになるか)を達成するための構成・内容
- ・複数の力を結び付けた統合的な言語活動が中心
- ・「英コミュⅠ」は中学校段階での学習の確実な定着(高等学校への橋渡し)を含む

学習指導要領に掲げられる資質・能力を確実に育成するための指標形式の目標を段階的に設定

論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

- ・「話すこと[やり取り・発表]」「書くこと」を中心とした発信力の強化
- ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動が中心
- ・聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする統合型の言語活動

併せて専門教科「英語」の各科目も見直し
(総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ、エッセイライティングⅠ・Ⅱ)

Ⅰ→Ⅲへ内容の高度化・話題の多様化

改訂の概要

生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習

高等学校 家庭科（共通教科）について

目指す資質・能力等
<p>○自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭についての理解 ・乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解と技能 ・生涯の生活設計についての理解 ・各ライフステージに対応した衣食住についての理解と技能 ・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての理解と技能
<p>○家族・家庭や社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生涯を見通して解決する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭や社会における生活の中から問題を見だし、課題を設定する力 ・生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え、解決策を構想する力 ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する力 ・他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力
<p>○相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度 ・様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画しようとする態度 ・生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度 ・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度 ・自己のライフスタイルの実現に向けて、将来の家庭生活や職業生活を見通して学習に取り組もうとする態度

内 容	
<p>○科目の導入として、「生涯の生活設計」の項目を新たに設け、AからCまでの内容と関連付けるとともに、まとめとしても指導することを明記。</p> <p>○現在を起点に将来を見通したり、自己や家族を起点に地域や社会へ視野を広げたりできるよう指導することを明記。</p> <p>○家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ることを明記。</p>	
家庭基礎(2単位)	家庭総合(4単位)
<p>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</p> <p>(1) 生涯の生活設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫 <p>(2) 青年期の自立と家族・家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭に関する法規に触れることを明記 <p>(3) 子供の生活と保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援についての理解 ・乳幼児と関わるための基礎的な技能 <p>(4) 高齢期の生活と福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の尊厳と介護についての理解(認知症含む) ・高齢者の生活支援に関する基礎的な技能についての内容の充実 <p>(5) 共生社会と福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助、共助及び公助の重要性についての理解 <p>B 衣食住の生活の自立と設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造についての理解 <p>(1) 食生活と健康</p> <p>(2) 衣生活と健康</p> <p>(3) 住生活と住環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災などの安全や環境に配慮した住生活の工夫 <p>C 持続可能な消費生活・環境</p> <p>(1) 生活における経済の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計管理についての理解 ・リスクを想定し、不測の事態に備えた対応についての理解 <p>(2) 消費行動と意思決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性についての理解 ・消費者保護の仕組みについての理解 <p>(3) 持続可能なライフスタイルと環境</p> <p>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>	<p>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</p> <p>(1) 生涯の生活設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫 <p>(2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会</p> <p>(3) 子供との関わりと保育・福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の遊びと文化についての理解 ・子育て支援についての理解と工夫 ・子供の発達に応じた適切な関わり方の工夫 <p>(4) 高齢者との関わりと福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の尊厳と介護についての理解(認知症含む) ・高齢者の心身の状況に応じた生活支援に関する技能についての内容の充実 <p>(5) 共生社会と福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助、共助及び公助の重要性についての理解 <p>B 衣食住の生活の科学と文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と世界の衣食住の文化についての理解 ・和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実 <p>(1) 食生活の科学と文化</p> <p>(2) 衣生活の科学と文化</p> <p>(3) 住生活の科学と文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくりの考察、工夫 <p>C 持続可能な消費生活・環境</p> <p>(1) 生活における経済の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不測の事態に備えたリスク管理に関する内容の充実 <p>(2) 消費行動と意思決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性についての理解 ・消費者保護の仕組みについて理解 ・消費生活に関する演習を取り入れることを明記 <p>(3) 持続可能なライフスタイルと環境</p> <p>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>

高等学校情報科の科目構成・内容（概要）

「情報Ⅰ」（共通必修科目）

問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育む科目

(1) 情報社会の問題解決	情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法や情報モラル、情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築などについて考察する。
(2) コミュニケーションと情報デザイン	効果的なコミュニケーションを行うために、情報デザインの考え方や方法に基づいて表現する。
(3) コンピュータとプログラミング	プログラミングによりコンピュータを活用するとともに、モデル化やシミュレーションを通して問題の適切な解決方法を考える。
(4) 情報通信ネットワークとデータの活用	情報セキュリティを確保し、情報通信ネットワークを活用するとともに、データを適切に収集、整理、分析し、結果を表現する。

全ての生徒が、プログラミング、ネットワーク(情報セキュリティを含む。)やデータベース(データ活用)の基礎等について学ぶ

「情報Ⅱ」（発展的な内容の選択科目）

「情報Ⅰ」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用し、あるいはコンテンツを創造する力を育む科目

(1) 情報社会の進展と情報技術	情報社会の進展と情報技術との関係を歴史的に捉え、将来の情報技術と情報社会を展望する。
(2) コミュニケーションとコンテンツ	文字、音声、静止画、動画等を組み合わせたコンテンツを、情報デザイン及び社会に発信したときの効果や影響も考慮して制作する。
(3) 情報とデータサイエンス	データサイエンスの手法により、多様かつ大量のデータを基に、現象をモデル化し、分析し、その結果を読み取り、解釈し表現する。
(4) 情報システムとプログラミング	情報システムを開発の効率等に配慮して設計するとともに、情報システムを構成するプログラムを制作する。
(5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究	情報Ⅰ及び情報Ⅱで身に付けた資質・能力を総合的に活用し、情報と情報技術を活用して問題の発見・解決に取り組み、新たな価値を創造する。

(参考) 現行の科目構成

「社会と情報」

情報機器や情報通信ネットワークの適切な活用、情報化が社会に及ぼす影響の理解等を重視

「情報の科学」

情報や情報技術の活用に必要な科学的な考え方、情報社会を支える情報技術の役割の理解等を重視

いずれか1科目を選択必修

現状の課題

「情報の科学」を履修する生徒の割合は約2割(約8割の生徒は、高等学校でプログラミング等を学ばずに卒業する)であるなど、情報の科学的な理解に関する指導が必ずしも十分ではない。

生徒の卒業後の進路等を問わず、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むことが重要。

高等学校の数学・理科にわたる探究的科目 —「理数探究基礎」、「理数探究」—

1. 背景

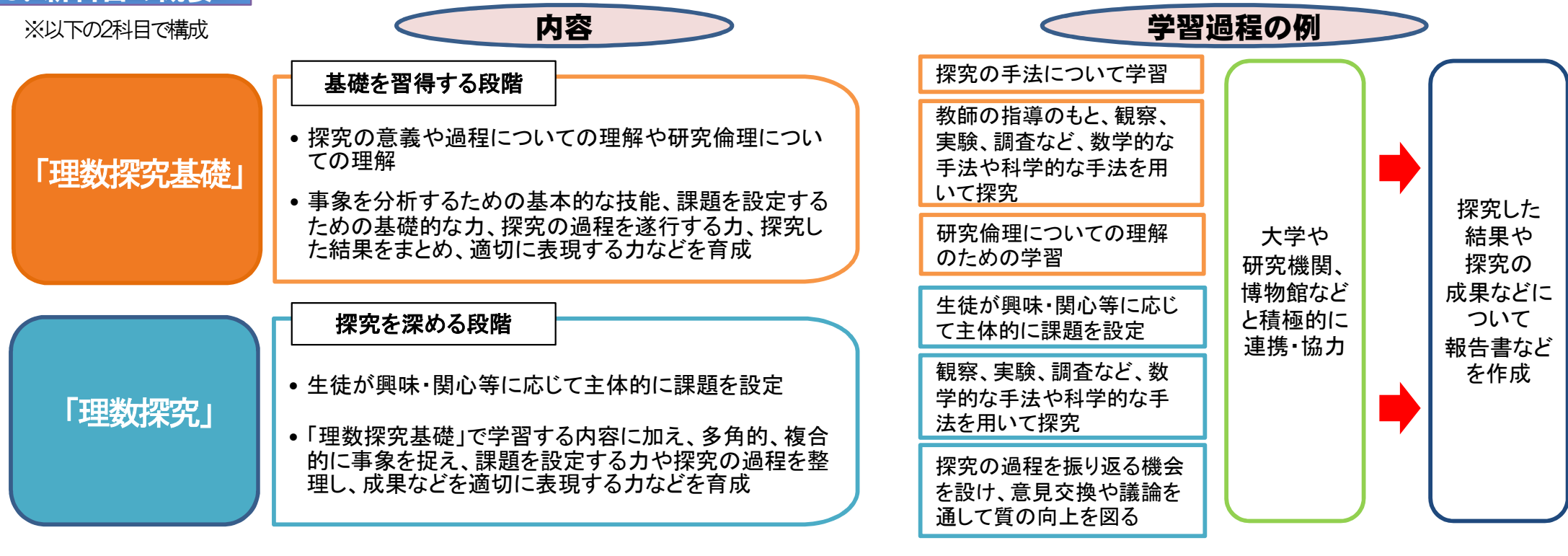
・中央教育審議会答申において、将来、学術研究を通じた**知の創出をもたらすことができる創造性豊かな人材の育成**を目指し、そのための基礎的な資質・能力を身に付けることができる**数学・理科にわたる新たな探究的科目**の設定が提言されたことを受けて新設。

2. 新科目の基本的な考え方

・数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、**探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を育成**。
・様々な事象や課題に**知的好奇心や主体性**をもって向き合い、**教科・科目の枠にとられない多角的、複合的な視点**で事象を捉える力などを養う。
・粘り強く考え行動し、**課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度**などを養う。

3. 新科目の概要

※以下の2科目で構成



4. 新科目の履修のあり方

・「理数探究基礎」又は「理数探究」の履修をもって**総合的な探究の時間の一部又は全部に替えることが可能**。
・「理数探究基礎」及び「理数探究」は選択履修科目であるが、**理数に関する学科においては、原則として「理数探究」を全ての生徒が必履修**。

道徳教育のイメージ

「道徳科における見方・考え方」

様々な事象を道徳的諸価値を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること

「道徳教育」

（学校教育全体）

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、（中学校までの道徳的諸価値の理解を基に）人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

校長のリーダーシップの下、
カリキュラム・マネジメントを担う
道徳教育推進教師を軸に、
全ての教員が実施
※新設

「学校教育全体」

「中核的な指導場面」

特別活動

公民科（「公共」、「倫理」）

※「公共」は共通必修科目、「倫理」は選択科目

各教科等

「道徳教育」

（学校教育全体）

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

校長のリーダーシップの下、
カリキュラム・マネジメントを担う
道徳教育推進教師を軸に、
全ての教員が実施

「道徳科」

かなめ
（要の時間）

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

（＝道徳性）

※道徳性の諸様相である「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」は相互に関係し合っており、切り分けられない。

道徳科において、各教科等における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関する指導を補い、一層深め、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりする

特別活動

社会、各教科等

「道徳教育」

（学校教育全体）

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

校長のリーダーシップの下、
カリキュラム・マネジメントを担う
道徳教育推進教師を軸に、
全ての教員が実施

「道徳科」

かなめ
（要の時間）

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

（＝道徳性）

※道徳性の諸様相である「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」は相互に関係し合っており、切り分けられない。

道徳科において、各教科等における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関する指導を補い、一層深め、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりする

特別活動

社会、各教科等

道徳的価値を認識できる能力の程度や社会認識の広がり、生活技術の習熟度などに応じて深まる